

## 告辞

本日晴れて東京農工大学より学位を授与された皆さん、おめでとうございます。これまで陰になり日向になり支えてこられたご家族の皆様をはじめ関係各位にも心よりお祝い申し上げます。ここにこうして卒業式・修了式を挙げる運びとなりましたことを、教職員一同大変嬉しく思っております。

本日学位を取得されたのは、工学部の学士が7名、工学府の修士6名、博士7名、農学府の修士18名、生物システム応用科学府の修士1名、博士3名、連合農学研究科の博士11名、論文博士1名の計54名です。この54名の皆さんは、これからさらにその専門性を深め高めつつ、それぞれの進路で社会人として、また研究者・技術者としての道を歩み始めることとなります。自分次第でどのようにでも作れる前途洋々たる明るい未来です。困難や苦労も多かったであろうこれまでの学生生活を乗り越えてきた皆さんなら、きっとそれぞれの夢を実現することができると思っています。

そんな希望に満ちた皆さんに、本日は敢えて、私が心に置いて時に自分を諫めている言葉をお贈りしましょう。それは、

“Festina lente (フェスティーナ レンテ).”

ラテン語の格言で、直訳すると『ゆっくりと急げ』という意味です。日本語の『急がば回れ』に近いでしょうか。私も含め、ここにいる皆さんは皆科学者・研究者です。その使命として、研究の成果を出し、その成果で社会に貢献することを常に意識しています。その熱意は何ものにも変えがたい価値あるものです。さらに皆さんがこれから社会に出て企業に入ればもちろん利益というものも大切になってきますし、研究者として研究をするにも予算を獲得するための業績が必要になってきます。自分の情熱も周囲の期待も、すべて『成果』に向かってひた走ることになるのです。しかし、その道を急ぎすぎはいけません。焦りや思い込みは間違いを引き起こします。求めるもののみを集中して見続けるあまりに本質が見えなくなっていないか、どこかに無

理を強いていないか、他に道はないのか、常に俯瞰で捉え、気を配らなくてはなりません。だから目標に一生懸命になっている時こそ、『ゆっくりと急ぐ』という心構えが必要なのです。困難にあった場合も同じです。打開しよう、先へ行こうと焦ると思います。思うようにならないと、全て投げ出したくなるかもしれません。しかしそういう時こそ一度立ち止まって基本に立ち返り、自分の足元、歩んできた道を振り返ってみてください。どうしたら乗り越えられるのか、その答えがきっと見つかるはずです。皆さんが学んだこの東京農工大学は、そのための環境作りを第一にしてきたのですから。

本学は 140 年を越える長い歴史と伝統を引き継ぎながら、世界と競える先端研究力の強化と高度なイノベーションリーダーの養成に力を入れ、進化を続けてきました。効果的かつ魅力的なカリキュラム編成や実力のある教授陣の布陣、産業界との連携や国際交流の推進などを工夫して、研究機関として、高等教育機関として、本学に所属する一人一人が力を発揮し最大最高の成果を社会に還元できるよう、より良い環境とは何かを常に模索し続けています。そして良いと思ったことには果敢に挑戦します。未来を見据え、しかし決して急ぎすぎず、変化する状況を的確に認識し、やろうとしていることを様々な観点から議論しながら。人も大学も同じなのです。常に内省し周囲の状況に目を配りつつ、目的に向かって着実に精進する、これが『ゆっくりと急ぐ』で、そうすれば好機を逃さずに目的を、もしくはそれ以上の成果を手にすることができるのです。皆さんも是非その気持ちを持ち続けて、より良い未来の創造への貢献という高い理想に向かって歩みを進めていってほしいと思います。

皆さんの人生はまだまだこれからです。皆さんの今後のご活躍を、同じ研究者として心より応援しております。そして必要とあればいつでも本学を、私たちを頼って来てください。一緒に道を探し前進していきましょう。本学も皆さんの力と誇りになれるよう、機動力と柔軟性を武器に世界最先端の研究を担う大学としてより一層努力を重ねていく所存です。皆さんのこれからの奮闘と輝かしい将来に期待し、そして最後に本学のさらなる発展と皆さんの後に続く後輩たちのために同窓会活動等を

通じて今後もご支援くださるよう併せてお願い申し上げ、ここに告辞とさせていただきます。

平成 28 年 9 月 21 日

東京農工大学長 松永 是